

01 健康の考え方と成り立ち



① 疾病構造の変化など。p.8「私たちの健康のすがた」参照。

② p.8「私たちの健康のすがた」で取りあげる生活習慣病なども慢性的な病気といえる。

③ QOL (Quality of Life) ともいう。人生において多くの社会的役割を実行できる能力だけではなく、自分の生活への満足感や幸福感が含まれる。

④ オタワ憲章としてまとめられている。

資料1 健康のさまざまなとらえ方



コラム

権利としての健康 20世紀に入り、人間の生存そのものの配慮に対する社会的要求の高まりと、予防医学・公衆衛生の発達とともに、国民全体の健康を守る義務が国に課せられるべきであるとする意識が強まってきた。第二次世界大戦後の民主主義の高揚とともに、国際連合は「世界人権宣言」を採択し、WHOは、「世界保健機関憲章」の前文で、健康の定義に続き、「到達しうる最高基準の健康を享有することは、人種、宗教、政治的理念又は経済的若しくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の1つである」としました。同様に、日本国憲法第25条では、すべての国民に、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障し、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と国の義務を述べています。

このように、健康は社会的な権利としてもとらえられているのです。

- 学習の目標
- さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。
- 健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。

keywords
世界保健機関 (WHO) 憲章
/生活の質/主体要因/環境要因/自然環境/社会環境

2 健康の成り立ちとその要因

1 健康の成り立ちにかかる要因 私たちが健康に生きていくためには、さまざまな条件があります。たとえば、生活習慣病の原因となるような不健康な生活を送っていれば健康を維持することは困難です。また、私たちを取り巻く環境が病気を引き起こすような場合でも健康は維持できません。このように、本人にかかる**主体要因**と、それを取り巻く**環境要因**の両方が、私たちの健康の成り立ちに関係しています **資料2**。

2 さまざまな主体要因と環境要因 主体要因には、年齢、性別、遺伝などの人間の生物としての側面と、運動、食事、喫煙などの生活習慣があります。また環境要因には、大気、水、土壤などの自然環境があります。さらに所得⑤、職場、人間関係のような経済的・文化的環境、保健所や病院などの**保健・医療サービス⑥**を含めた**社会環境**があります。

私たちの生活習慣やライフスタイル⑦が自然環境に影響を与えたり⑧、保健所や保健センターにおける保健活動が生活習慣に影響を与えたりするよう、主体と環境の要因は互いに影響しあいながら私たちの健康を成り立たせています。

資料2 健康の成立要因

環境要因	
●自然環境	●社会環境
大気、水、土壤、動植物など	経済的・文化的環境 (所得、職場、人間関係、交通機関の発達、メディアの普及など)
●人間の生物としての側面	●保健・医療サービス
年齢、性別、遺伝、免疫など	(保健所、保健センター、病院、診療所、保健・医療に関する政策、制度など)
●生活習慣	
運動、食事、休養・睡眠、喫煙、飲酒など	

話してみよう

自分にとっての健康の定義を考えてみよう。そして、それをほかの人の考えと比べてみよう。